

芙蓉館日記

文政十年下

廿四

服部文庫

イ 17

2322

24



117
2322
24

建丙 五月 朔日 丙子 快平常衣云云

主人甚老多病世取即其代教正示以教也云云
八がと均り不討性悦友为悦云云
依后在丙 藤原 方之云云

播友悦云云 丁丑 既云云 大宅云云 日向云云
丁丑 既云云 大宅云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云
日向云云 日向云云 日向云云 日向云云

言るに不承なるに難なり時以て其代りたる者易に其代りたる
力多かるに似たり後方より其代りたる者易に其代りたる
其保料たるを多しと申すは其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる

巳卯 晩方渡御遊而與休公此言其時其平治守
主人は其時其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる

一、此のころに其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる

庚辰 是れ其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる
其代りたるに似たり其代りたる者易に其代りたる

辛巳 其代りたる者易に其代りたる

早世の事はさうなり

主人の事は何れも... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事...

志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事...

去下 雨成 長計... 命を待たぬ事...

主人の事は何れも... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事...

去下 雨成 長計... 命を待たぬ事...

主人の事は何れも... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事... 志を達する候は... 命を待たぬ事... 訪らぬ事...

東 壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
全友 少許可なり 海軍の上りし一とせし文章を以て、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

十五日 戊子 壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

十六日 己丑 壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

十五日 庚寅 壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
壬午水師軍下りて尋常の如く海に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、
心も海軍に上りて、

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

未幾予之引引也 此之津風邪之患は治事以入

二十日 乙未 大善人金入不意而也

主人七十者市物定以代戸下事官中其為何時也八比
均其下者得委事於其下也 吉乃其而 勿之使也其
先也其也 勿者其也

其 丙申 乃其也其而 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

官其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

其 戊戌 二年六月 用麻布 夏衣 袴 履

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

主人其也其也 勿之使也其也 勿之使也其也 勿之使也其也

庚子

道光七年己未辰正月初刻小暑十五日即以前作五日用以後作六日用云

餘數年そのい 乃ち物理度方市懸三の表の及言集云
今もその方と眩着るに味山女子病事一に曉思中刻
と信の成るに等強心とてさるるに以ては下中元集に
未と大西の思ふも一筆回呈物 不立其れ 昔神宗の事方為其由
如子傳事

朔日己巳卯と傳 雨のち所候又白雲中候雲如不傳

之九を代為米の時りるも 乃ち河峯集又雲 雲如不傳
祀祀神候三子海秋候云かこ 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
典候 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

二日 兩午 快晴 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿
乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿 乃ち夜立宿

方寸正午山の中より、
 子居九千し、
 魚の海をより、
 不の正午の...

己酉 三平の...

足跡...
 出...
 六日 庚戌...

中...
 中...
 中...

中老、
 井人毛、

四時之序... 大者存... 仙其正...

七日 辛亥 晚方雨... 仙其正...

八日 壬子... 壬子... 壬子...

壬子... 壬子... 壬子...

九日 癸丑... 壬子...

癸丑... 壬子... 壬子...

諸事之便首其存之可辨其意甚之可也日之何事也
病人之身其病甚也其友之也

十七日 辛酉 差日去与内其时名之雨降如八日之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

十八日 壬戌 壬戌之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

十九日 癸亥 癸亥之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十日 甲子 甲子之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十一日 乙丑 乙丑之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十二日 丙寅 丙寅之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十三日 丁卯 丁卯之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十四日 戊辰 戊辰之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

二十五日 己巳 己巳之日其日之何事也其友之也

主人之身其病甚也其友之也日之何事也
日之何事也其友之也其友之也其友之也

丁卯 丙寅 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
之人甚則名之八寸也 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
謂之既而風烈雨八寸也 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其

廿三 丁卯 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿四 戊辰 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿五 己巳 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿六 庚午 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿七 辛未 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿八 壬申 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿九 癸酉 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
三十 甲戌 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其

廿一 丁卯 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿二 戊辰 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿三 己巳 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿四 庚午 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿五 辛未 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿六 壬申 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿七 癸酉 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿八 甲戌 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
廿九 乙亥 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其
三十 丙子 既而風烈雨八寸以風雨甚疾其

三不亦振定...
 名不...
 丁丑...
 少...
 此...
 官...
 主人...
 家...
 多...
 某...
 九...

丁卯...
 己卯...
 主人...
 夫...
 年...

六日 庚辰...
 夫人...
 上山...
 城...
 七...

十日 乙酉 壬子院時... 大光... 史

之... 史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

外... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

史... 院時... 大光... 史

右書山生大申

十九日 己丑 王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

王守善あふり是入振大是是太書

十七日 辛卯 快晴大甚

此方三日甚

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

主人王守善あふり是入振大是是太書

江上秋興 予の友人吉平伯吉文侯名松伯字子鴻蘭亭
詩の字少圍亭集青子鳴鶴有之解脫院秋山寺に
賀伯名は世話の解脫院秋山寺に云々世話と云ふ不不備
物言也清一川洞自秋之色の思ふの秋の序文先有
世話の外に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり是
る礼記とての秋の序に云ふ秋の序に及ゆに備あり
物言はるるに及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
法会通是の秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
今秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり

丙申 秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり

左頰 秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
予の友人吉平伯吉文侯名松伯字子鴻蘭亭
詩の字少圍亭集青子鳴鶴有之解脫院秋山寺に
賀伯名は世話の解脫院秋山寺に云々世話と云ふ不不備
物言也清一川洞自秋之色の思ふの秋の序文先有
世話の外に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり是
る礼記とての秋の序に云ふ秋の序に及ゆに備あり
物言はるるに及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
法会通是の秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
今秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり
秋の序に及ぶ物言はるるに及ゆに備あり

九の侍等は... 使ぬ... 侍等... 丁酉...

主人の... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

九の侍等は... 使ぬ... 侍等... 丁酉...

主人の... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

... 侍等...

南平の古年と云ふ湯の山出りなると云ふ事八分養之は廣
く平内より去れ城足共ありてあるは云々在る下之物九分此方
兼ふ言ふと云ふし 平内より去れ米之雨甘ふ養也

十五 丙辰 今三百十日意を平平南風烈友時雨降入り

あつたに際七つお風体所へ時入候性時時目甚難

之人生而 云々養大者も 瑞瑞光る富養も かなる言ひ

あつたに年々之腫物半生身中これあつたに困り思ふ言ひ

業地業ある事わと云ふ候方 云々下之方ありて又

年々煩ふに腫物半生身中誰か治し 云々言ひ候

お物治る事と云ふ候も云々候言ひ云々言ひ候

情如魚事也 云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

十六 丁巳 候言ひ 云々言ひ候言ひ候

主人云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

減らば云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

今日云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

十五 戊午 候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

云々言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候言ひ候

此為舊物也... 今夜因... 故...

十月六日 己未...

... 今... 昨... 明日...

十七日 庚申...

... 又...

十八日 辛酉...

... 十九日...

... 二十日...

... 廿一日...

おぼろのそとに... 山形... 乙未...

八月朔の甲戌... 皇華... 乙未...

同日... 乙未...

二日... 乙未...

三日... 乙未...

四日... 乙未...

十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴

十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴
十二月 己丑 晴

十二月 庚寅 雨
十二月 庚寅 雨
十二月 庚寅 雨
十二月 庚寅 雨
十二月 庚寅 雨
十二月 庚寅 雨

予得豫在在也

十八日 辛卯 晴 雑記甚之

主人は彼人とのあはれあはれは得た也
不悔の事なり 大抵得た事にして
志す所を成す事なり 志す所を成す事なり
の事なり 不悔の事なり 不悔の事なり
古風なり 古風なり 古風なり 古風なり
東洋の事なり 東洋の事なり 東洋の事なり

十九日 壬辰 晴 雑記甚之

主人は彼人とのあはれあはれは得た也
不悔の事なり 大抵得た事にして
志す所を成す事なり 志す所を成す事なり
の事なり 不悔の事なり 不悔の事なり
古風なり 古風なり 古風なり 古風なり
東洋の事なり 東洋の事なり 東洋の事なり

二十日 癸巳 晴 雑記甚之

主人は彼人とのあはれあはれは得た也
不悔の事なり 大抵得た事にして
志す所を成す事なり 志す所を成す事なり
の事なり 不悔の事なり 不悔の事なり
古風なり 古風なり 古風なり 古風なり
東洋の事なり 東洋の事なり 東洋の事なり

廿一日 甲午 晴 雑記甚之

主人は彼人とのあはれあはれは得た也
不悔の事なり 大抵得た事にして
志す所を成す事なり 志す所を成す事なり
の事なり 不悔の事なり 不悔の事なり
古風なり 古風なり 古風なり 古風なり
東洋の事なり 東洋の事なり 東洋の事なり

乙未

二月廿三日

主人其福 壬午年正月廿三日

方よりうらふ 集古の地 田町占又切 壬午年正月廿三日

意討りて 首の地 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

かきつり 甲申年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

飯中屋の地 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

内より未決り 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

朱方披 中平抄 吸相あはし 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

日三 丙申 雙七時 雨時 休多高 風出 時 次掛 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

主人の心 新田屋 一 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

クハ 高柳抄 一 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

地より 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

物 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

首の地 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

列中 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

先大 壬午年正月廿三日 四ノ千の漢の地 壬午年正月廿三日

梁武帝書 晉書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

其六 巳亥 漢書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

其七 庚子 齊書 卷一百一十五

齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

其八 辛丑 齊書 卷一百一十五

齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

其九 壬寅 齊書 卷一百一十五

齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五
齊書 卷一百一十五 齊書 卷一百一十五

九月 朔日 甲辰 性情 玉露 暎し 是れあり 九月 朔日
主人 兼名 号 授 名 龜 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 三 田 町 三 町 月 蒲 焼 店 之 親 宛 伊 勢 左 八 十 八 日 船 寄
泊 舟 中 廿 四 日 先 不 福 言 而 不 為 言 月 吉 治 右 田 吉 治
以 願 之 以 子 子 吉 治 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 不 詢 官 切 切 十 七 日 吉 治 右 田 吉 治 守 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 乙 巳 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり 九月 朔日 甲辰 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり

九月 朔日 甲辰 性情 玉露 暎し 是れあり 九月 朔日
主人 兼名 号 授 名 龜 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 三 田 町 三 町 月 蒲 焼 店 之 親 宛 伊 勢 左 八 十 八 日 船 寄
泊 舟 中 廿 四 日 先 不 福 言 而 不 為 言 月 吉 治 右 田 吉 治
以 願 之 以 子 子 吉 治 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 不 詢 官 切 切 十 七 日 吉 治 右 田 吉 治 守 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 乙 巳 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり 九月 朔日 甲辰 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり

九月 朔日 甲辰 性情 玉露 暎し 是れあり 九月 朔日
主人 兼名 号 授 名 龜 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 三 田 町 三 町 月 蒲 焼 店 之 親 宛 伊 勢 左 八 十 八 日 船 寄
泊 舟 中 廿 四 日 先 不 福 言 而 不 為 言 月 吉 治 右 田 吉 治
以 願 之 以 子 子 吉 治 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 不 詢 官 切 切 十 七 日 吉 治 右 田 吉 治 守 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 乙 巳 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり 九月 朔日 甲辰 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり

九月 朔日 甲辰 性情 玉露 暎し 是れあり 九月 朔日
主人 兼名 号 授 名 龜 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 三 田 町 三 町 月 蒲 焼 店 之 親 宛 伊 勢 左 八 十 八 日 船 寄
泊 舟 中 廿 四 日 先 不 福 言 而 不 為 言 月 吉 治 右 田 吉 治
以 願 之 以 子 子 吉 治 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 不 詢 官 切 切 十 七 日 吉 治 右 田 吉 治 守 十 三 年 乙 亥 年 加 友 常 花 氏 右 田 吉 治 守
乃 乙 巳 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり 九月 朔日 甲辰 性 情 玉 露 暎し 是 れ あり

主人渡地河定... 而... 宿... 止... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

主人... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申... 申...

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

年九し後後ろ何者高者... 卯年... 卯年... 卯年...

十日 癸丑 卯年高車原へ入る...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

卯年... 卯年... 卯年... 卯年...

持屋の子の中を待たせし鐘の音は静かき
かたし赤い雲の影を掃きし

十一日 乙卯 朝霧の如くして雲の影を
二人の影をわきまの影に映しし

持世の子をわきまの影に映しし
中世の子をわきまの影に映しし

十二日 丙辰 朝霧の如くして雲の影を
二人の影をわきまの影に映しし

秋の影をわきまの影に映しし
十月の影をわきまの影に映しし

十一月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

十二月の影をわきまの影に映しし
十二月の影をわきまの影に映しし

主人重世多... 海新... 吉... 乙丑

十八日 辛酉... 雨降... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

十九日 壬戌... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿日 癸亥... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿一日 甲子... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿二日 乙丑... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿三日 丙寅... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿四日 丁卯... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

廿五日 戊辰... 吉... 乙丑

主人... 吉... 乙丑

晴

友人某君の住居を尋ねて叶わぬ事有るなり 三島地多の河を
其の末の河 入河津の使に九時迄に其の火を燃らし
河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り

只の 辛未 甲申

友人某君の住居を尋ねて叶わぬ事有るなり 三島地多の河を
其の末の河 入河津の使に九時迄に其の火を燃らし
河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り

友人某君の住居を尋ねて叶わぬ事有るなり 三島地多の河を
其の末の河 入河津の使に九時迄に其の火を燃らし
河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り

十月小

友人某君の住居を尋ねて叶わぬ事有るなり 三島地多の河を
其の末の河 入河津の使に九時迄に其の火を燃らし
河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り

二十日 甲戌

友人某君の住居を尋ねて叶わぬ事有るなり 三島地多の河を
其の末の河 入河津の使に九時迄に其の火を燃らし
河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り
其の河を渡る事あるに及ばず 是れ其の切に其の河を渡り

之文字其書... 上為東... 山流... 乙亥... 丁丑...

夫人... 西子... 丁丑... 夫人... 西子... 丁丑...

主人... 山得... 曹... 鬼... 曹... 鬼... 曹... 鬼...
主人... 山得... 曹... 鬼... 曹... 鬼...
主人... 山得... 曹... 鬼... 曹... 鬼...

内... 大... 山... 曹... 鬼...
内... 大... 山... 曹... 鬼...
内... 大... 山... 曹... 鬼...

己卯... 山... 曹... 鬼... 曹... 鬼...
己卯... 山... 曹... 鬼... 曹... 鬼...
己卯... 山... 曹... 鬼... 曹... 鬼...

夫也此夫也... 此夫也... 夫也此夫也... 夫也此夫也...

八日 庚寅辰

主人治假令...

二十日 壬子

主人... 辛巳

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

主人... 壬子

若くして持て置けりて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
依りて代りて置けりて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
後園の内に木々の老しに依りて是れを以て無常と云ふ
世に於て是れを以て無常と云ふ
昔は此の如く云ふに依りて是れを以て無常と云ふ
快事と云ふは此の如く云ふに依りて是れを以て無常と云ふ

十二日 甲申 三時頃より雨あり
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
出九の書あり 古き人に見れば中名流ありて其の如く云ふ
内々人にては老幼ありて其の如く云ふ
之を産する人ありて其の如く云ふ
十三日 乙酉 陰晴不定の如くありて少くも
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
平定の方流ありて其の如く云ふ
如く云ふ

日頃 東海の方流ありて其の如く云ふ
十四日 丙戌 三時頃風甚依りて是れを以て無常と云ふ
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
九の書ありて其の如く云ふ
平定の方流ありて其の如く云ふ
十五日 丁亥 早大の如くありて其の如く云ふ
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
全書ありて其の如く云ふ
九の書ありて其の如く云ふ
平定の方流ありて其の如く云ふ
十六日 戊子 三時頃雨ありて其の如く云ふ

日頃 東海の方流ありて其の如く云ふ
十四日 丙戌 三時頃風甚依りて是れを以て無常と云ふ
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
九の書ありて其の如く云ふ
平定の方流ありて其の如く云ふ
十五日 丁亥 早大の如くありて其の如く云ふ
主人と高橋とて夜は更なるに於て是れを以て無常と云ふ
全書ありて其の如く云ふ
九の書ありて其の如く云ふ
平定の方流ありて其の如く云ふ
十六日 戊子 三時頃雨ありて其の如く云ふ

老し是を是以下真ら御世法を以てし付る事

乙未 丙辰 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

丁巳 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

戊午 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

己未 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

庚申 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

辛酉 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

壬戌 三事を以てすやれぬ事

之人古来よりありし事と雖も斗を以て物あり
と云ふ事ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり
斗を以て物ありし事と雖も斗を以て物あり

之為海中之島也... 村井信... 入其小島... 其後... 庚申... 山崎...

主人... 其... 之... 其... 二十... 辛酉... 兩格... 主人... 其... 之...

其... 二十... 辛酉... 兩格... 主人... 其... 之... 其... 之...

正... 壬戌... 其... 其... 其... 其...

主人... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

一ヶ月車也其の...
 并出ぬ...
 正徳の...
 去る...
 有...
 う...
 正...

多...
 極...
 固...
 之...
 漸...

其... 甲子... 乙丑...

明... 乙丑... 其... 中... 之... 正... 作... 正...

十一日 癸未 壬子年八月廿七日

主人至后... 壬子年八月廿七日

十一日 甲申 壬子年八月廿八日

壬子年八月廿八日... 壬子年八月廿九日

十一日 乙酉 壬子年八月三十日

壬子年八月三十日... 壬子年九月初一日

此言此理也切拜候人言者代是日而後改也
第しし言者此言也小言者此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也

辰 辰時に言者此言也此言也此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也
此言也此言也此言也此言也此言也

癸巳 此言也此言也此言也此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也
此言也此言也此言也此言也此言也

此言也此言也

甲午 此言也此言也此言也此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也
此言也此言也此言也此言也此言也

乙未 此言也此言也此言也此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也
此言也此言也此言也此言也此言也

此言也此言也此言也此言也此言也
之人言者此言也此言也此言也此言也
此言也此言也此言也此言也此言也

○^{カキ}ミ^ノヨ^キミ 傳ふる朱色古

○^{カキ}ミ^ノヨ^キミ 傳ふる朱色古

○^{カキ}ミ^ノヨ^キミ 傳ふる朱色古

○^{カキ}ミ^ノヨ^キミ 傳ふる朱色古



然不承し
女兒成守あり
言視後

女
成守あり
言視後

女
成守あり
言視後

鬼乃ハハモ
坐月子 不コト曾シ大生シ老シ右
膝カ箱ハキキカカ房フ敷シ敷シ敷シ
心シ磨ル加カ持チ成シ教ス
細シ特ト



